

MPS間の転送行列のふるまいについて

塩崎 謙

February 15, 2023

1 準備

$D \times D$ 行列の集合 $\{A_i\}_{i=1}^d$, $A_i \in \text{Mat}_{D \times D}(\mathbb{C})$ をMPSと呼ぶことにする. 異なる行列サイズ D を同時に扱う場合は, D -MPSなどを書くことにする. MPSがカノニカルとは,

$$\sum_i A_i A_i^\dagger = 1_D \quad (1)$$

を満たすことを指す. MPSがinjectiveとは, 転送行列

$$T_{AA}(X) = \sum_i A_i X A_i^\dagger \quad (2)$$

のスペクトル半径を ρ_A としたとき, 固有値 $|\lambda| = \rho_A$ なる固有値 λ は一意的であり, 対応する固有空間の次元は1で, 固有ベクトルは正定値であることを指す. injectiveなMPS $\{A_i\}_i$ に対して, $\lambda = \rho_A$ なる固有ベクトル $X, X > 0$ を用いて,

$$A_i \mapsto \frac{1}{\sqrt{\rho_A}} X^{-1/2} A_i X^{1/2} \quad (3)$$

とすることでいつでもカノニカル化できることに注意する. 以下の事実がある. [1]

$$|\{A_i\}_i\rangle_L := \sum_{i_1, \dots, i_L} \text{tr}[A_{i_1} \cdots] |i_1 \cdots i_L\rangle \quad (4)$$

と書く. 2つのカノニカルかつinjectiveな D -MPS $\{A_i\}_i, \{B_i\}_i$ に対して, ある $L \in \mathbb{N}$ とある $e^{i\phi} \in U(1)$ が存在して $|\{A_i\}_i\rangle_L = e^{i\phi} |\{B_i\}_i\rangle_L$ であれば, $e^{i\theta} \in U(1)$ と $V \in U(D)$ が存在して

$$A_i = e^{i\theta} V^\dagger B_i V \quad (5)$$

である. $e^{i\theta}$ は一意的であり, V は $U(1)$ 位相を除いて一意的である.

G を有限群とし, $\phi: G \rightarrow \{\pm 1\}$ を準同型とする. ϕ_g はユニタリ, 反ユニタリを示す. 行列 X に対して表記

$$X^{\phi_g} = \begin{cases} X & (\phi_g = 1) \\ X^* & (\phi_g = -1) \end{cases} \quad (6)$$

を導入する. $\bigotimes_{x=1}^L |i_x\rangle$ で張られるHilbert空間に対して, G 作用を

$$\hat{g} = \bigotimes_{x=1}^L \hat{u}_g^{[x]}, \quad \hat{u}_g^{[x]} |j_x\rangle = \sum_{i_x} |i_x\rangle [u_g]_{i_x j_x}, \quad u_g \in U(d), \quad u_g u_h^{\phi_g} = u_{gh}, \quad (7)$$

で定義する. $\{u_g\}_{g \in G}$ は G の線形表現である. カノニカルかつinjectiveなMPS $\{A_i\}_i$ が G 対称であることを, 任意の $L \in \mathbb{N}$ に対して, ある $e^{i\phi_L}$ が存在して,

$$\hat{g} |\{A_i\}_i\rangle_L = e^{i\phi_L} |\{A_i\}_i\rangle_L \quad (8)$$

なることと、と定義する。すると、上記事実より、 $g \in G$ に対して、 $e^{i\theta_g} \in U(1)$ と $V_g \in U(D)$ が存在して、

$$[u_g]_{ij} A_j^{\phi_g} = e^{i\theta_g} V_g^\dagger A_i V_g \quad (9)$$

である。ここで、 $e^{i\theta_g}$ は一意的であり、 V_g は $U(1)$ 位相を除いて一意的である。

$$e^{i\theta_g} e^{i\phi_h \theta_h} = e^{i\theta_{gh}}, \quad g, h \in G \quad (10)$$

が成立し、また、 $\omega_{g,h} \in U(1)$ が存在して、

$$V_g V_h^{\phi_g} = \omega_{g,h} V_{gh}, \quad g, h \in G \quad (11)$$

が成立する。

$$(\omega_{h,k})^{\phi_g} \omega_{gh,k}^{-1} \omega_{g,hk} \omega_{g,h}^{-1} = 1, \quad (12)$$

つまり、 $\omega \in Z^2(G, U(1)_\phi)$ であり、 V_g の位相の取り替え $V_g \mapsto V_g \alpha_g, \alpha_g \in U(1)$ に対して、 $\omega \mapsto \omega \delta \alpha$ となる。よって、 ω は群コホモロジー $[\omega] \in H^2(G, U(1)_\phi)$ によって分類される。

2 転送行列

カノニカルかつinjectiveな D_0 -MPS $\{A_i^0\}_{i=1}^d$ と D_1 -MPS $\{A_i^1\}_i$ に対して、転送行列 $T_{A^0 A^1} \in \text{End}(\text{Mat}_{D_0 \times D_1}(\mathbb{C}))$ を

$$T_{A^0 A^1}(X) = \sum_i A_i^0 X (A_i^1)^\dagger \quad (13)$$

と定義する。サイト数 L におけるMPS間の内積が $\text{tr}[(T_{A^0 A^1})^L]$ である。なお、 $D_0 \times D_1$ 行列の空間の基底を $e_{ab} = |a\rangle \langle b|$ とすると、転送行列の行列成分は

$$[T_{A^0 A^1}]_{ab,cd} = \text{tr} \left[\sum_i A_i^0 e_{cd} (A_i^1)^\dagger e_{ab}^T \right] = \sum_i \langle a | A_i^0 | c \rangle \langle b | (A_i^1)^* | d \rangle \quad (14)$$

となる。 $\{A_i^0\}_i, \{A_i^1\}_i$ が G 対称である場合に転送行列 $T_{A^0 A^1}$ の G 対称性を調べる。

$$\sum_j [u_g]_{ij} (A_j^\mu)^{\phi_g} = e^{i\theta_g^\mu} (V_g^\mu)^\dagger A_i^\mu V_g^\mu, \quad V_g^\mu (V_h^\mu)^{\phi_g} = \omega_{g,h}^\mu V_{gh}^\mu, \quad \mu \in \{0, 1\}, \quad (15)$$

とする。

$$A_i^\mu = \left(\sum_j [u_g^\dagger]_{ij} e^{i\theta_g^\mu} (V_g^\mu)^\dagger A_j^\mu V_g^\mu \right)^{\phi_g} \quad (16)$$

に注意。すると、 $g \in G$ に対して、

$$T_{A^0 A^1}(X) = \sum_i A_i^0 X (A_i^1)^\dagger \quad (17)$$

$$= \sum_i \left(\sum_j [u_g^\dagger]_{ij} e^{i\theta_g^0} (V_g^0)^\dagger A_j^0 V_g^0 \right)^{\phi_g} X \left(\left(\sum_k [u_g^\dagger]_{ik} e^{i\theta_g^1} (V_g^1)^\dagger A_k^1 V_g^1 \right)^{\phi_g} \right)^\dagger \quad (18)$$

$$= \sum_i \left(e^{i\theta_g^0} (V_g^0)^\dagger A_i^0 V_g^0 \right)^{\phi_g} X \left(e^{i\theta_g^1} (V_g^1)^\dagger A_i^1 V_g^1 \right)^{\phi_g} \quad (19)$$

$$= e^{i\phi_g(\theta_g^0 - \theta_g^1)} \left((V_g^0)^\dagger \right)^{\phi_g} \left(\sum_i A_i^0 V_g^0 X^{\phi_g} (V_g^1)^\dagger (A_i^1)^\dagger \right)^{\phi_g} (V_g^1)^{\phi_g} \quad (20)$$

$$= e^{i\phi_g(\theta_g^0 - \theta_g^1)} \left((V_g^0)^\dagger \right)^{\phi_g} (T_{A^0 A^1}(V_g^0 X^{\phi_g} (V_g^1)^\dagger))^{\phi_g} (V_g^1)^{\phi_g}, \quad (21)$$

つまり、

$$\left((V_g^0)^\dagger \right)^{\phi_g} T_{A^0 A^1}(X) \left((V_g^1)^{\phi_g} \right)^\dagger = e^{i\phi_g(\theta_g^0 - \theta_g^1)} (T_{A^0 A^1}(V_g^0 X^{\phi_g} (V_g^1)^\dagger))^{\phi_g}, \quad (22)$$

なる対称性がある。成分で書くと、

$$(\text{lhs})_{ab,cd} = \text{Tr}[(V_g^0)^{\phi_g} T_{A^0 A^1}(e_{cd}) ((V_g^1)^{\phi_g})^\dagger e_{ab}^T] \quad (23)$$

$$= \sum_{ef} [T_{A^0 A^1}]_{ef,cd} \text{Tr}[(V_g^0)^{\phi_g} e_{ef} ((V_g^1)^{\phi_g})^\dagger e_{ab}^T] \quad (24)$$

$$= \sum_{ef} [T_{A^0 A^1}]_{ef,cd} [V_g^0]_{ae}^{\phi_g} [(V_g^1)^*]_{bf}^{\phi_g}, \quad (25)$$

$$(\text{rhs})_{ab,cd} = \text{Tr}[e^{i\phi_g(\theta_g^0 - \theta_g^1)} (T_{A^0 A^1}(V_g^0 e_{cd}^{\phi_g} (V_g^1)^\dagger)^{\phi_g} e_{ab}^T] \quad (26)$$

$$= e^{i\phi_g(\theta_g^0 - \theta_g^1)} \sum_{ef} \text{Tr}[(T_{A^0 A^1}(e_{ee} V_g^0 e_{cd}^{\phi_g} (V_g^1)^\dagger e_{ff})^{\phi_g} e_{ab}^T] \quad (27)$$

$$= e^{i\phi_g(\theta_g^0 - \theta_g^1)} \sum_{ef} [V_g^0]_{ec}^{\phi_g} [(V_g^1)^*]_{fd}^{\phi_g} \text{Tr}[(T_{A^0 A^1}(e_{ef})^{\phi_g} e_{ab}^T] \quad (28)$$

$$= e^{i\phi_g(\theta_g^0 - \theta_g^1)} \sum_{ef} [V_g^0]_{ec}^{\phi_g} [(V_g^1)^*]_{fd}^{\phi_g} [T_{A^0 A^1}]_{ab,ef}^{\phi_g}, \quad (29)$$

つまり、

$$\sum_{ef} [T_{A^0 A^1}]_{ef,cd}^{\phi_g} [V_g^0]_{ae} [(V_g^1)^*]_{bf} = e^{i(\theta_g^0 - \theta_g^1)} \sum_{ef} [V_g^0]_{ec} [(V_g^1)^*]_{fd} [T_{A^0 A^1}]_{ab,ef}, \quad (30)$$

であり、

$$\sum_{ef} (V_g^0 \otimes V_g^{1*})_{ab,ef} [T_{A^0 A^1}]_{ef,cd}^{\phi_g} = e^{i(\theta_g^0 - \theta_g^1)} \sum_{ef} [T_{A^0 A^1}]_{ab,ef} (V_g^0 \otimes V_g^{1*})_{ef,cd} \quad (31)$$

と表示するとわかるように、以下のように行列表示できる。

$$(V_g^0 \otimes V_g^{1*}) [T_{A^0 A^1}]^{\phi_g} = e^{i(\theta_g^0 - \theta_g^1)} T_{A^0 A^1} (V_g^0 \otimes V_g^{1*}), \quad g \in G. \quad (32)$$

$|\lambda\rangle$ を $T_{A^0 A^1}$ の固有値 λ なる固有状態とする。

$e^{i\theta_g^0}$ と $e^{i\theta_g^1}$ が G の異なる 1 次元表現であれば、ある $g \in G$, $\phi_g = 1$ が存在して $e^{i(\theta_g^0 - \theta_g^1)} \neq 1$ であるから、そのような $g \in G$ に対して、 $e^{-i(\theta_g^0 - \theta_g^1)} \lambda$ も固有値。

$e^{i\theta_g^0}$ と $e^{i\theta_g^1}$ が G の同一の 1 次元表現とする。このとき、転送行列 $T_{A^0 A^1}$ は対称性

$$(V_g^0 \otimes V_g^{1*}) [T_{A^0 A^1}]^{\phi_g} = T_{A^0 A^1} (V_g^0 \otimes V_g^{1*}), \quad g \in G, \quad (33)$$

を満たす。 $[\omega^0] \neq [\omega^1]$ である場合は $T_{A^0 A^1}$ は $V^0 \otimes V^{1*}$ の既約分解に対してブロック対角化される。 $\omega^0 \omega^{1*}$ -既約表現の次元は 2 以上であるため、 λ が固有値であれば、 λ か、あるいは λ^* も固有値である。

以上より、 $e^{i\theta_g^0}$ と $e^{i\theta_g^1}$ が異なる 1 次元表現であるか、あるいは $[\omega^0] \neq [\omega^1]$ である場合に、転送行列 $T_{A^0 A^1}$ の固有値の絶対値は必ず 2 個以上の対で出現することが示された。

つまり、並進対称かつ G 対称な 1 次元非縮退状態 $\{A_i^0\}_i$, $\{A_i^1\}_i$ が、異なる SPT 相に属する場合は、転送行列 $T_{A^0 A^1}$ の固有値の絶対値は必ず 2 個以上の対で出現する。

References

- [1] D. Perez-Garcia, F. Verstraete, M.M. Wolf, J.I. Cirac, *Matrix Product State Representations*, arXiv:quant-ph/0608197 .